

1 気象概況（6月1～3半旬：果樹研究所）

平均気温は、1半旬が17.8 で平年より1.0 低く、2半旬が19.8 で平年より0.2 高く、3半旬が21.9 で平年より2.4 高く経過しました。この期間の降水量は25.8mmで平年の69%でした。

2 土壌の乾燥状態（6月14日現在：果樹研究所）

6月14日現在の土壌水分（草生栽培リンゴほ場：無かん水）は、深さ20cmはpF2.9と乾燥していますが、深さ40cmはpF2.4、深さ60cmはpF2.3で、40cm以下は適湿範囲となっています。

3 生育概況（6月15日現在：果樹研究所）

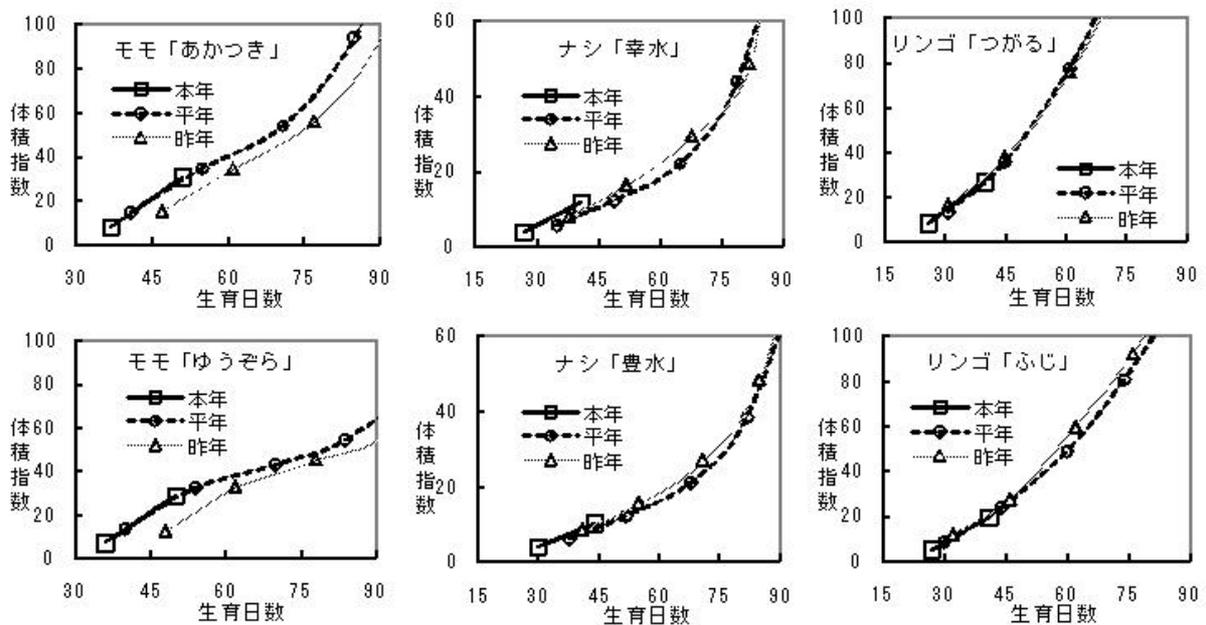


図 主要品種の果実肥大（6月15日現在）

(1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が41.5mmで平年比100%、側径が35.4mmで平年比95%、「ゆうぞら」は縦径が41.9mmで平年比98%、側径が33.6mmで平年比93%と平年並み～やや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年並みとなっています。

「あかつき」新梢生長（満開後50日）は、長さが平年比109%と長いですが、新梢停止は平年より早い傾向が認められます。

「あかつき」の硬核期開始は6月13日で平年より1日遅れました。なお、果樹研究所によると、「あかつき」の収穫期は平年より2日程度遅いと予測されています。

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が25.0mmで平年比96%、横径が29.6mmで平年比99%、「豊水」は縦径が25.8mmで平年比93%、横径が27.5mmで平年比95%と平年並み～

やや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、「幸水」は平年よりやや大きく、「豊水」は平年並みの状況です。

「幸水」の新梢生長（予備枝：満開後40日）は、長さが平年比139%と長く、葉数は平年比117%と多い状況です。

### （3）リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が35.9mmで平年比93%、横径が37.7mmで平年比90%、「ふじ」は縦径が34.6mmで平年比97%、横径が32.8mmで平年比92%と平年よりやや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種共に平年並みの状況です。

「ふじ」の新梢生長（満開後40日）は、長さが平年比72%と短かく、新梢停止も平年より早い状況です。

### （4）ブドウ

「巨峰」の開花は6月11日で平年より5日遅く、満開は6月15日で平年より6日遅れました。新梢生育を過去4か年と比較すると、新梢長は短く、展葉数は同程度となっています。

## 4 栽培管理上の留意点

### （1）モモ

#### ア 仕上げ摘果

硬核期に入りましたので、仕上げ摘果が終了していない園地では速やかに実施しましょう。

#### イ 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施します。核障害の発生が多い場合は、2～3回に分けて修正摘果を実施します。特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮および果肉が変色している果実、極端に肥大の早い果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施しましょう。

### （2）ナシ

#### ア 仕上げ摘果

予備摘果終了後、速やかに仕上げ摘果を実施します。仕上げ摘果では、果実の肥大や果形に注意して適正着果量に調整します。

#### イ 予備枝の誘引

「幸水」の予備枝の誘引は、満開後65日頃（新梢停止期の約10日前）が適期です。花芽着生を促進するため、誘引を徹底しましょう。

### （3）リンゴ

#### ア 着果管理

仕上げ摘果は満開60日後までに実施しましょう。小玉果、変形果、サビ果、傷果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残すようにします。仕上げ摘果が遅れると、翌年の花芽分化が悪くなりやすいので、着果量の多い樹では遅くとも7月上旬までに適正着果量としましょう。

#### イ 新梢管理

徒長枝が繁茂する時期なので、樹冠内部の日当たりと薬液の到達性を高めるために夏季せん定を実施しましょう。夏季せん定は、主枝や垂主枝の背面から発生した徒長枝を中心にせん除しますが、過度な夏季せん定は、骨格枝背面の日焼けの発生を助長したり、樹液の流動を阻害することで樹体を衰弱させる原因となるので、切りすぎには注意しましょう。

#### (4) ブドウ

##### ア 摘房・摘粒

有核栽培では結実がわかり次第（満開後2週間頃）、1新梢1果房を目安に、単為結果が多い果房、花振るいが激しい果房、果粒肥大の揃いが悪い果房を中心に摘房を実施します。また、摘粒は、実止まり決定後、有核果と無核果の区別が付くようになった頃から実施します。

##### イ 新梢管理

実止まりが確認でき次第、強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を切除し、樹冠の日当たりを確保しましょう。

#### 5 病害虫防除上の留意点

##### (1) 病 害

##### ア リンゴ輪紋病・斑点落葉病・褐斑病

本県では6月14日に梅雨入りしました。梅雨期は、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病の感染に好適な多湿条件になりやすいことから、防除の徹底を図りましょう。

##### イ モモせん孔細菌病

降雨が多いと、二次伝染源による発病が増加しやすいため、今後も引き続き注意が必要です。園内に春型枝病斑や発病葉および発病果が見られる場合は適正に処分しましょう。

##### ウ モモホモプシス腐敗病・灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重要防除時期であるので、6月下旬の防除を徹底するとともに、伝染源の芽枯れや枝枯れが認められる場合は適正に処分しましょう。また、果実が成熟するとともに灰星病に感染しやすくなるので、6月下旬以降の防除を徹底しましょう。

##### エ ナシ黒星病・輪紋病

果樹研究所（6月11日現在：「幸水」無防除樹）における黒星病の発病葉率は平年より高い傾向が見られます。また、6月中旬以降は輪紋病の感染が多くなるので、今後の防除を徹底しましょう。なお、黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除き適正に処分しましょう。

##### オ ブドウ晩腐病

開花後は本病の重要防除時期となるため、落花直後の防除を徹底しましょう。また、カサかけ、袋かけを適期に行い、感染を防ぎましょう。

##### (2) 虫 害

##### ア モモハモグリガ

第2世代の防除適期は7月2半旬～4半旬と推定されるため、この時期の防除を徹底しましょう。近隣に放任園などがある場合は、特に注意しましょう。

##### イ ナシヒメシンクイ

第2世代防除適期は7月1半旬～2半旬頃と推定されます。本種の第1世代は主にモモ等の核果類の新梢に寄生し、後半の世代はナシの果実への寄生が増加するので、両樹種の防除を徹底しましょう。

##### ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が認められるモモ園では、6月4半旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょう。なお、被害果実は見つけしだい摘除し、適正に処分しましょう。

#### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。